

内モンゴル人民党第四回大会に関する声明

内モンゴル人民党

2021 年 12 月 5 日

内モンゴル人民党の第四回大会は、2021 年 12 月 5 日にオンラインで開催され、過去の活動の総括が行われ、今後の計画が採択されました。議事日程に基づき、党は定例の選挙を実施し、新たな党首、執行評議会議長、書記長、その他の支部長をそれぞれ選出しました。

大会の冒頭では、党の元党首であるハトギン・ドルギオンが、2015 年 5 月の党の再編以降の 6 年間の活動について報告を行いました。彼は、内モンゴル人民党が国際社会の注目を南モンゴルの現状と課題に集めるために、国際連合、欧州議会、アメリカ議会、国際人権団体、その他の非政府組織、自由な報道機関などと協力しながら、たゆまぬ努力を続けてきたことを説明しました。これらの活動により、具体的な成果が得られたことを実例を挙げて紹介しました。将来を見据え、大会参加者は、過去の成果と教訓を総括しながら、世界中のモンゴル人との緊密な連携、若い世代の積極的な参加の促進、新しい党員の育成強化を重視する新たな指針を全会一致で承認しました。

党員選挙の結果、ケレイド・フビスガルトが党首に、G.スチントが執行評議会議長に選出され、ハトギン・ドルギオンが書記長に任命されました。また、アメリカ支部長には B.トゥメンウルジー、日本支部長には G.スチント、モンゴル国内支部長にはアルタンガダス、ヨーロッパ支部長には H.フチンがそれぞれ任命されました。

執行評議会の会議と選挙の後、党員および支持者を交えた公開会議が開催されました。モンゴル国からはチ.ムンフバヤル、日本からはジリガラ、スウェーデンからは H.ナラスおよびブラグが参加し、自らの考えを述べ、内モンゴル人民党への継続的な支援を表明しました。

大会は、新たな党員や若い支持者に向けて、内モンゴル人民党の核心的な使命を再認識させました。それは、南モンゴルにおける中国の植民地支配を終わらせ、南モンゴルの独立と自由を勝ち取るために闘うというものです。さらに、南モンゴルの真の所有者はモンゴル人であること、そして先祖代々の神聖な土地の上で自らの運命を主体的に切り拓く権利を持つことを強調しました。モンゴルの文化遺産、言語、文字を守り育て、次の世代に継承することは、党の存在の基本原則であると改めて訴えました。

また、モンゴル民族の運命に対して、すべてのモンゴル人が責任を負っていること、他国や外部勢力に頼ることは無意味であり、モンゴル民族を守り、復興し、強化できるの

はモンゴル人自身だけだという厳肅な真実を世界中のモンゴル人に深く認識させ、民族の復興という偉大な事業において一致団結し、力を尽くすよう呼びかけました。

永遠なる青空がモンゴルの人々を祝福しますように。